



中学生議員の質問に答弁する片庭市長

トをかぶせていたとしても、100%放射線物質が漏れないという保障はできないでしょう。その汚染土の近くへ行き、雑草を捨てに行くことは気持ちの良いものではありません。

【教育長答弁】

まず、市内小中学校の除染作業についてご説明します。昨年8月21日に、小中学校の保護者を対象に、「放射線対応保護者会議」を開催し、保護者の協力のもと、校庭などの空間放射線量を低減させることを目的に除染作業を実施しました。作業は、

校庭などから出た土砂を、土のう袋に入れ、各学校敷地内の校庭の隅などに仮埋設しました。埋設した場所には、杭やトラロープなどで柵を設け、立入禁止区域に設定し、児童生徒が近づかないよう指導しています。なお、谷和原中学校の仮埋設した場所の放射線量は、ブルーシートの上で0.086マイクロシーベルトと、校庭と同程度の線量で、市の除染計画に定める0.23マイクロシーベルト以下ですので、安全な状態となつています。

仮埋設した土砂の処分については、今後、方針に基づいて対応して参りたいと考えています。

【市長答弁】

各学校などのグラウンド一角に山積みになつている除染に伴つて生じた土砂については、安全を確認しています。低減作業を実施した当時は、除染方法および除染に伴い生じた土砂などの保管方法についての基準が定まつていませんでした。環境省が、放射性物質による汚染への対応についてまとめた「放射性物質汚染対処特別措置法」の施行は、本年1月で、国の対応が定まつていない中、近隣市町村などの情報をもとに、現場で埋設補完する方法で、先行して低減作業を実施したわけです。

各小学校敷地で仮埋設し保管している、除染に伴つて生じた土砂については、さらなる安全性を確保する上で、今後、掘り起こして処分場へ移して管理することが望ましいと考えています。仮置き場が設置できれば、市としても、早期に埋設した土砂を移動したいと考えています。

子育て支援について



江里口 綾美 議員 3年 (小絹中)

現在、仮置き場については、設置に向け検討を行つていますが、仮置き場の設置にはいろいろな課題も多いことから、仮置き場の候補地が決まらない状況です。市としても早期に仮置き場を設置し、学校に仮置きしている土砂を移すよう、努力していきたいと考えています。

祖父母の家で面倒をみてもらわなければなりません。私の場合、預けられる所がありませんが、家族が帰宅するまで一人家で待つている生徒もいます。もし、私が親としての立場となつた時は、将来とても不安になります。小絹児童クラブを小学校3年生から6年生への引き延ばしをすることは可能でしょうか。または、何か対策があるのでしょうか。

【市長答弁】

放課後児童クラブは、保護者の仕事などにより、放課後児童の養育が困難な家庭の、原則として小学校1年生から3年生の児童をお預かりしています。運営については、専任の指導員による児童の生活指導、仲間づくりなどを行い、心身ともに健全な児童の育成を図ることを目的に事業を実施しています。

本年4月1日現在では、市内7カ所の児童クラブに330人が在籍しており、中には特別な事情があるとの申し出により、4年生以上の在籍も認めています。小絹児童クラブは、入級希望者が大変多く、小学校3年生までの児童で、受け入れ定員を超えてしまつた状況です。とはいえ、安心して子育てができるまちづくりを推進するためには、子どもたちが安全に過ごせる場、環境づくりにも江里口議員と同様に考えています。

これからの社会は、今にも増して核家族が進み、共働きの家庭が増加すると予想されます。また、小学校に通う子どもを持つ女性が、安心して仕事につき、社会で活躍できる環境づくりは、行政の責務であると思います。今後は、小絹児童クラブ希望者数の推移をみながら、施設の増設などを含めて検証し、4年生以上の児童の受け入れが現在よりも推進できるよう検討していきます。

【保健福祉部長】

児童クラブの運営にあたっては、厚生労働省が定めた「放課後児童クラブガイドライン」が策定されていますが、市でも、「放課後児童対策事業実施要綱」を別に定め、事業の推進を図つていま